

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 27 年 8 月 20 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
コンゴ民主共和国ルオー学術保護区ワンバ村
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
野生ボノボの予備調査
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 27 年 6 月 26 日 ~ 平成 27 年 8 月 3 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所 古市剛史教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回のコンゴ民主共和国ワンバ村への渡航は、野生ボノボの予備調査および非侵襲的 DNA サンプルングを目的とし、ワンバ村にて以下の日程で行われた。
2015/6/ 26 関西国際空港発 2015/6/27 イスタンブールを經由し、キンシャサ着 2015/7/2 ジョル着 2015/7/3 ワンバ着 2015/7/29 ワンバ発ジョル着 2015/7/30 キンシャサ着 2015/8/3 イスタンブールを經由し、関西国際空港着
今回の渡航は私にとって初めての海外渡航であり、本格的なフィールドワークであった。自分がどれだけ異文化に適応できるのか、海外でのフィールドワークはどれだけ大変なものなのかを知ることができる良い機会だと思って渡航した。実際にワンバで生活してみると、当たり前だが日本の考え方では通用しないことが多く、私にとっては非常に勉強になることが多かった。
まず印象的だったのは、海外での調査許可の取得が思いのほか大変なことだ。ワンバでは 40 年以上の長期に渡って調査が継続されている。そのため、現地の人たちはよく私たちのことを知っており、申請もスムーズに行いやすい。しかし、それでも許可証発行の際にお金を高額に要求されたり、過度に長時間待たされたりすることが何度かあった。多少腹が立つことがあっても我慢し、地道に現地との信頼関係を築いていくしかないのだと思った。また、現在の調査地との関係も、過去の研究者たちが信頼関係を築いてきた賜物だと思った。このような現地と仲良くやっていくスキルも、フィールドワークに必要な能力なのだ改めて学んだ。
次に、熱帯雨林の中を歩くのはとてつもなく大変なことであった。渡航前は正直、体力には自信のある方だった。しかし、今回の渡航メンバーの中で、私はとびぬけて森を歩けなかった。バランス感覚が悪く、丸太の上を歩くとふらつくことや、身体が大きいと、つる植物やとげ植物にひっかかりやすいことが原因かもしれないが、はっきりとはよく分からない。今回アクシデントが発生したため 1 か月しか森に行けず、2, 3 か月後に自分が歩けるようになってきているか確かめられなかったのが残念ではあったが、熱帯雨林歩きは自分が思っていたよりもずっとハードだということは学べた。
野生のボノボを観ている時は、やはりわくわくした。ボノボは誰かが鳴くと、必ずと言っていいほど、たくさん個体が返事をし、とんでもなく騒がしくなるのが印象的だった。古市教授の言っていた、みんなで一緒にいるという意識が強いというのが納得できた。ボノボとチンパンジーの離合集散も意味が大きく異なるのだろう。また、私が見た短い時間では高順位のオスが高順位のメスと交尾し、低順位のオスが低順位のメスと交尾しているように思えた。もしそのような傾向がボノボにあるなら面白いとも思ったが、広い森の中で、私たちに見えずに行われている交尾はたくさんあるだろうとも感じた。本当にそのような傾向があるのかを確かめるためには個体追跡をするしかないのではないだろうか？また、今回肉食を観察することがで

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

きた。ボノボたちはとても興奮していた。ビデオにおさめたかったが、木の上で激しく動き回るため、無理だった。野生動物の観察ではいつ何が起こるか分からないということや、40年もの長期に渡って研究が行われても、まだまだ分かっていないことがあるというのが感じられた。

DNA のサンプリングは、聞いていた通りの困難に直面した。やはり子供の糞を得るのが難しかった。木の上において、地面に落ちてこないことも多々あった。その点尿は地面に落ちては来るのだが、少量であり、糞より DNA の収率は良くないようだ。自分の研究内容により、どれだけサンプリングに労力を費やし、どれだけ観察に時間を割くのかのバランスが大切なのだろう。

他にも、ここに書ききれないほど様々な経験をした。野生動物を見る感動を味わえた一方で、海外フィールドワークの怖さも感じた。これらは、今後の研究の上ではもちろん、それ以外の面でも今後の人生の上で役に立つものだと思う。ここで学んだことを、今後の研究に生かし、精進していきたい。



野生のボノボ



ワンバの基地

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、ご指導を賜った古市教授および渡航先で様々な支援をしてくださった皆さまに感謝申し上げます。